

# 飲水思源

町長 松岡市郎

## 線香の火は消すな！

今年は何年になく雪が多い。雪といえば「雪は天から送られた手紙である」と有名な言葉を残された雪の科学者、故中谷宇吉郎北大教授が思い浮かぶ。故人は随筆集の中で「線香の火は消すな」という言葉を書き記した。どんなことでも手掛けた以上は続けることが大切である、と説いている。

人は貯めたいものは貯まらないが、溜めたくないものは溜まるものだ。これではたまったものではない。町長になって腰は少々軽くなったのではないか、と思っているが、体は逆に重くなった。体に脂肪が付く、溜めたくないと思つて意識すると、逆に溜まつていく。要は食べ過ぎなのだ。

先日、東京で福原義春資生堂会長、池上惇京都大学名誉教授、翻訳家、和爾（わに）桃子さんと昼食をとにした。和爾さんは絶食し、数カ月間で体重を4割近く落としたそうだ。

減量の話は別にして、大都市である東京や横浜で郷土の名前「東川町」を見聞きするにつけ、いかに誇らしい気持ちになることか。福原会長は、東京都写真美術館で開催した東川賞の海外作家展を見

て、「写真の町」東川町を大変高く評価してくださっている。親しい間柄とお聞きしている池上教授に「東川は写真の町を宣言して国際的に有名」とお話しされていた。池上教授は何かの機会に広く紹介したい、と考えていたようで、近々発刊予定の福原会長との共著の中で、内容の予定を変更して東川町のことを書いていただけるといふ。本当に光栄なお話をいただいた。

日本最大のカメラショー「CP+（プラス）」が2月、横浜で開催された。主催者からの特別なご配慮で、その一画に写真の町・東川町のブースが設置された。写真甲子園や東川町のPRの場となつていた。東京・銀座で開催中の今岡昌子さんの写真展、同時期に八重洲地下街で開催した「大雪山ひがしかわ写真展・観光物産フェア」でも東川町の名前が輝いて見えた。

これもひとえに、先人各位のご尽力により「写真の町」の名前を消さずに事業を続けていくことができたからだ。「線香の火は消すな」に学び、私事ではあるが過食を避ける決意の火も今日から灯したいものだ。

## 文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



少年マイロの火星冒険記  
(アニメ、DVD)  
ウォルト・ディズニースタジオジャパン

ある晩、マイロはいつもガミガミ怒ってばかりいるママについて口走る。「ママがいなきゃどんなにいいか!」。その言葉に涙を浮かべるママ。謝ろうとしたマイロの目前で、ママが何者かによって宇宙船へ連れ去られてしまう。マイロは必死に追いかけて、2人を乗せた宇宙船が到着した場所は、なんと火星だった。(88分間)



ココロ屋(児童書)  
著/梨屋アリエ  
刊/文研出版

「ココロを入れかえなさい」。また先生に怒られてしまった。教室から逃げ出したぼくの前にココロ屋が現れてこう言った。「さて、どのココロにいたしましょうか。」「えっ、ココロって取りかえられるの?」。ぼくはココロ屋の『やさしいココロ』と自分のココロを取りかえてみた。すると…。



蝸ノ記  
(一般書)  
著/葉室麟 刊/祥伝社

命を区切られた時、人は何を思いいかに生きるのか? 豊後・羽根藩の奥祐筆、檀野庄三郎は、城内で刃傷沙汰に及んだ。からくも切腹を免れたものの、家老の命によって元郡奉行、戸田秋谷の元へ遣わされる。戸田は7年前、前藩主の側室と不義密通を犯した罪で、家普遍さんと10年後の切腹を命じられて向山村に幽閉中だった。第146回直木賞受賞作品。